

# H24-D1-1 93.43~97.80m

記事	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事	上端深度		下端深度	
				記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)						
			記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)						
			記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)						
319	93.43	94.40	94.00~94.14mは風化により著しく軟化するが、これ以外には硬さCの主体で、割れ目ぞいに幅0.5~5mmの軟弱な白色粘土脈をはさむ。特に、94.14m以深では、70~80°の粘土脈が多数分布する。割れ目は10~30°と70~80°が主体で、上記の粘土脈のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。	94.00~94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟化するが、これ以外には硬さCの主体で、割れ目ぞいに幅0.5~5mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。特に、94.14m以深では、70~80°の粘土脈が多数分布する。割れ目は10~30°と70~80°が主体で、上記の粘土脈のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。	軟質化している部分の形状を追記した。 ・傾記の修正(硬さCの主体⇒硬さC主体) ・表現の適正化(軟質化、扱い、挟む、軟弱⇒軟質)	93.43~94.40m: 94.00~94.14mは風化により不規則な形状で著しく軟質化するが、これ以外にはやや硬質である。割れ目ぞいに幅0.5~5mmの軟弱な白色粘土脈を挟む。特に、94.14m以深では、傾斜70~80°の粘土脈が多数分布する。傾斜10~30°と70~80°の割れ目が主体で、上記の粘土脈のほか、割れ目の一部は風化で薄く砂状化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない			
320	94.40	95.23	概ね著しく軟化した硬さEで、一部で硬さ「D」「C」の径10~30mm岩片を含んでいる。岩組織と割れ目も大半が薄減しているが、94.76m・55°は直線的でシャープに連続するせん断性割れ目で、前者は幅0~2mmの軟弱な白色粘土脈を不連続に伴い、後者は幅1~2mmの軟弱な灰色粘土脈を連続的に伴う。両者とも面を境として変質の程度岩相が異なっている(変位量不明)。	概ね著しく軟化した硬さEで、一部で硬さ「D」「C」の径10~30mm岩片を含んでいる。岩組織と割れ目も大半が薄減しているが、94.76m・55°は直線的でシャープに連続するせん断性割れ目で、前者は幅0~2mmの軟弱な白色粘土脈を不連続に伴い、後者は幅1~2mmの軟弱な灰色粘土脈を連続的に伴う。両者とも面を境として変質の程度岩相が異なっている(変位量不明)。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	・岩組織や割れ目の大半は認識できるため「岩組織と割れ目も大半が薄減しているが」との記載を削除した。 ・直線的な割れ目を追記した。 ・表現の適正化(軟質化、伴う、軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(異なっている⇒異なっている) ・2本の割れ目に挟む粘土について追記した。 ・94.76mの割れ目については、粘土を不連続に伴い、95.07mの割れ目については、横断する軟物が3箇所で見られるため変位量についての記載を削除した。 ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	94.40~95.23m: 著しく軟質化し、一部で硬さ「C」「D」の径10~30mmの岩片を含む。94.76m・55°と95.07m・65°の割れ目は直線的でシャープに連続する。前者は幅0~2mmの軟弱な白色粘土脈を不連続に伴い、後者は幅1~2mmの軟弱な灰色粘土脈を連続的に伴う。両者とも面を境として変質の程度が異なる。いずれの割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。				
321	94.40	95.23	(割れ目状態欄)dランク	(割れ目状態欄)cランク	・割れ目が認識できるため割れ目状態のランクをcランクに変更した	94.40	95.23	(割れ目状態欄)cランク		
322	95.07	95.14	粘土化進み、上下よりも粘土量が増加している。	95.07	95.14	粘土化進み、上下よりも粘土量が増加している。	95.07	95.14	95.07~95.14m: 粘土化が進み、上下よりも粘土量が多い。	
323	95.23	99.46	97.80~98.70m間が風化で軟化し、硬さ「D」となる以外には硬さ「C」である。全區間コア形状Vである。割れ目は20~50°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する30~50°割れ目も分布する。	97.80~98.70m間が変質で軟質化し、硬さ「D」となる以外には硬さ「C」である。全區間コア形状Vである。割れ目は20~50°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する30~50°割れ目も分布する。	軟質化の成因は変質であるため変更した。 ・全區間がコアの形状Vランクではないため記載を削除した。 ・表現の適正化(軟質化)	95.23~99.46m: 97.80~98.70m間が変質で軟質化する以外には、やや硬質である。傾斜20~50°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない			
324	95.23	95.51	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	95.23	95.51	(コアの形状欄)IVランク		
325	95.23	96.28	(割れ目状態欄)cランク	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	95.23	96.28	(割れ目状態欄)bランク		
326	96.12	96.28	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	・周囲に比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	96.12	96.28	(コアの形状欄)IVランク		
327	97.80	98.70	割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5~1mmの軟弱な白色~灰色粘土脈をはさむが、これ以外の区間(硬さCの区間)では、砂状化や粘土脈挟みも少ない。	割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5~1mmの軟弱な白色~灰色粘土脈を挟むが、これ以外の区間(硬さCの区間)では、砂状化や粘土脈挟みも少ない。	表現の適正化(扱い、挟む、軟弱⇒軟質) 文章の適正化(当該区間以外の記載は削除した)	97.80~98.70m: 割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5~1mmの軟弱な白~灰色粘土脈を挟む。				
328	96.28	96.79	各割れ目ぞいに砂状化することが多く、また、割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈をはさむことが多い。	各割れ目ぞいに砂状化することが多く、また、割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。	粘土脈を多く挟む区間の下端深度をコアに合わせて96.48mに変更した。 ・表現の適正化(扱い、挟む、軟弱⇒軟質)	96.28~96.48m: 各割れ目ぞいに砂状化し、割れ目に幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。				
329	96.28	96.79	(変質欄)3ランク	(変質欄)2ランク	・変質の程度がやや弱いため変質のランクを2ランクに変更した	96.28	96.79	(変質欄)2ランク		
330	96.28	98.70	(風化欄)dランク	(風化欄)γランク	・風化の程度がやや弱いため風化のランクをγランクに変更した	96.28	98.70	(風化欄)γランク		
331	96.48	97.42	(割れ目状態欄)cランク	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	96.48	97.42	(割れ目状態欄)bランク		
332	97.58	97.80	(割れ目状態欄)cランク	(割れ目状態欄)bランク	・挟在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	97.58	97.80	(割れ目状態欄)bランク		

# H24-D1-1 97.83~99.68m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
333	97.83	97.83	せん断性割れ目。	97.83	97.83	60°せん断性割れ目。同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	97.83	97.83	97.83m:傾斜60°の割れ目で、同系統の割れ目には横断する割れ目も見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	-
334	97.80	98.37	(変質欄)2ランク	97.80	98.37	(変質欄)3ランク	97.80	98.37	(変質欄)3ランク	-
335	98.16	98.37	(割れ目状態欄)6ランク	98.16	98.37	(割れ目状態欄)6ランク	98.16	98.37	(割れ目状態欄)6ランク	-
336	98.37	98.37	45°はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切り(変質量不明)。割れ目を境に上下端の岩盤状況が異なる。(上盤は硬さ「C」、下盤は硬さ「E」)。割れ目には粘土脈ははさまない。	98.37	98.37	45°のせん断性割れ目で、これと横断する割れ目と止まっている割れ目が見られる。交差する割れ目を切り(変質量不明)。割れ目を境に上下端の変質の程度岩盤状況が異なる。(上盤は硬さ「D」、下盤は硬さ「E」)。割れ目には粘土脈は挟まない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	98.37	98.37	98.37m:傾斜45°の割れ目で、これと横断する割れ目と止まっている割れ目が見られる。割れ目を境に上下端の変質の程度が異なる。割れ目に粘土脈は挟まない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
337	98.44	98.44	30°はせん断性割れ目で、上盤と下盤の岩盤状況を異なるものになっている(上盤は硬さ「C」、下盤は硬さ「D」)。割れ目には厚さ2~5mmの赤灰色軟弱粘土脈をはさむ。	98.44	98.44	30°のせん断性割れ目で、上盤と下盤の変質の程度岩盤状況を異なるものになっている(上盤は硬さ「E」、下盤は硬さ「D」)。割れ目には厚さ2~5mmと膨張する赤灰色軟弱粘土脈を挟む。この割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	98.44	98.44	98.44m:傾斜30°の割れ目を境に変質の程度が異なる。割れ目には幅2~5mmで膨張する軟弱赤灰色粘土脈を挟む。この割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
338	98.58	99.46	(割れ目状態欄)6ランク	98.58	99.46	(割れ目状態欄)6ランク	98.58	99.46	(割れ目状態欄)6ランク	-
339	99.02	99.46	(コアの形状欄)Ⅴランク	99.02	99.46	(コアの形状欄)Ⅳランク	99.02	99.46	(コアの形状欄)Ⅳランク	-
340	99.46	99.68	50~60°割れ目が平行に分布し、割れ目ごとに風化が進み砂状化する。また、幅0.5~1mmの白色~にぶい黄褐色(10YR 7/3)の粘土脈をはさむ。硬さも上位側の「C」から「D」に軟化している。	99.46	99.68	50~60°割れ目が平行に分布し、割れ目沿いに風化が進み砂状化する。また、幅0.5~1mmの白色~にぶい黄褐色(10YR 7/3)の粘土脈を挟む。硬さも上位側の「C」から「D」に軟化している。	99.46	99.68	99.46~99.68m:傾斜50~60°の割れ目が平行に分布する。割れ目沿いに風化が進み砂状化し、幅0.5~1mmの白~にぶい黄褐色の粘土脈を挟む。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

# H24-D1-1 99.46~99.91m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
341	99.46	99.71	(風化欄)のランク	99.46	99.71	(風化欄)のランク	・風化の程度がやや弱いため風化のランクをAランクに変更した	99.46	99.71	(風化欄)のランク	-
342	99.68	99.71	破砕帯	99.68	99.71	破砕部	・用語の統一(破砕帯→破砕部)				
343	99.68	99.69	Hc-2 上端65°, 下端63°で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒。粘土化したφ3~5mmGp岩片を含む硬質粘土で、粘土はやや稀る。灰赤色(2.5YR 6/2)~にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化。厚さ8mm。	99.68	99.69	Hc 粘土混じり硬質破砕部 上端65°, 下端63°で、両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒。粘土化したφ3~5mmGp岩片からなり、岩片間に幅1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。灰赤色(2.5YR 6/2)~にぶい黄褐色(10YR 7/2)を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化。厚さ8mm。	・岩片主体であるため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・表現の適正化(ほぼ) ・岩片間の粘土の挟みについて追記した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について修正・追記した	99.68	99.71	●99.68~99.71m:破砕部 99.68~99.69m:粘土混じり硬質破砕部(Hc) 上端65°, 下端63°でもほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。粘土化した径3~5mmの花崗斑岩の岩片からなり、岩片間に幅1mm以下の白色粘土を挟む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。上端側の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。幅8mm。 99.69~99.71m:硬質粘土状部(Hc-2) 上端63°, 下端65°でもほぼ直線的でシャープに連続。径1~2mmの石英粒。粘土化した径5mm前後の花崗斑岩の岩片を15%含む。やや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。幅12mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
344	99.69	99.71	Hb (主せん断面・99.71m) 上端63°, 下端65°で両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒。粘土化したφ5mm前後のGp岩片を多く含む硬質粘土で、粘土はやや稀る。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。厚さ12mm。	99.69	99.71	Hc-2 (最新活動面・99.70m、傾斜45°) 上端63°, 下端65°で両者ともほぼ直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒。粘土化したφ5mm前後のGp岩片を15%含む硬質粘土で、粘土はやや軟質。灰赤~にぶい黄褐色を呈する。厚さ12mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・岩片の含有率が少ないため破砕部内物質の名称、破砕度区分を変更した ・最新活動面という用語に統一 ・最も直線的なせん断面である99.70mに最新活動面の深度を変更し、傾斜角を追記した ・表現の適正化(ほぼ、やや) ・岩片の含有率を追記した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した				
345	99.68	99.69	(破砕度区分)Hc-2	99.68	99.69	(破砕度区分)Hc	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	99.68	99.69	(破砕度区分)Hc	-
346	99.69	99.71	(破砕度区分)Hb	99.69	99.71	(破砕度区分)Hc-2	・上記の記載に合わせて破砕度区分を変更した	99.69	99.71	(破砕度区分)Hc-2	-
347	99.71	100.00	硬さ「C」と上位より硬くなり、50~70° 割れ目、低密着割れ目と、これらに斜交~直交する30~40° 割れ目、低密着割れ目からなる。各割れ目、低密着割れ目とも粘土層ははさまない。	99.71	100.00	硬さ「B」と上位より硬くなり、50~70° 割れ目、低密着割れ目と、これらに斜交~直交する30~40° 割れ目、低密着割れ目が分布する。各割れ目、低密着割れ目とも粘土層ははさまない。	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・表現の適正化(狭む) ・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)	99.71	100.00	99.71~100.00m:傾斜50~70°と、これらに斜交~直交する30~40°の割れ目や低密着割れ目が分布する。各割れ目、低密着割れ目とも粘土層ははさまない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
348	99.71	100.00	(割れ目状態欄)cランク (コアの硬さ欄)Cランク	99.71	100.00	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)Bランク	・挟在物を伴う割れ目が少なく、硬質であるため、割れ目状態のランクをbランクに、コアの硬さのランクをBランクに変更した	99.71	100.00	(割れ目状態欄)bランク (コアの硬さ欄)Bランク	-
349	99.91	99.91	52° はせん断性割れ目で、交差する割れ目を切り(変位量1~6mm、左ズレ)、直線状でシャープに連続する。	99.91	99.91	52° のせん断性割れ目は、交差する割れ目を止めている。全切し変位量1~6mm、左ズレ、直線状でシャープに連続する。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・割れ目及び周辺の状況について追記した ・52°の割れ目と交差する割れ目に系統的なズレは見られないため「切り」を「止めている」に変更し、変位量についての記載を削除した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性」を削除した	99.91	99.91	99.91m:傾斜52°の割れ目は、直線的にシャープに連続し、交差する割れ目を止めている。割れ目には挟在物が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

H27-B-1

# H27-B-1 0.00~7.15m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
1			0.00	3.00	盛土 全体にルーズ	人工堆積物の区間を追記した		0.00~3.00m:盛土 径5~40mmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を2~30%含む細 ~粗粒砂からなる、全体にルーズ。	・盛土区間をまとめて書きした ・スライム区間を区別したため、下端深度を変更した	
2	0.00	0.30		0.00	0.40	細~中粒砂主体の盛土 径1cm以下の灰白色シルトの礫を2~5%程度含む	・礫の含有率の多寡の境界は0.40mの方が適切であると判断し、下端深度を変更し、本区間の礫率を追記した ・盛土に含まれる礫率を追記した	0.00	3.00	・盛土区間をまとめて書きしたため、盛土区間内の細区分の記載は削除した
3	0.30	0.70		0.40	0.70	径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土	・礫の含有率の多寡の境界は0.40mの方が適切であると判断し、上端深度を変更し、本区間の礫率を追記した ・盛土に含まれる礫率を追記した			
4	0.70	0.90		0.70	0.90	径0.5~1.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土	・盛土に含まれる礫率及び礫率を追記した			
5	0.90	1.80		0.90	1.80	径1.0~4.0cmの礫が主体の盛土	・盛土に含まれる礫率及び礫率を追記した			
6	1.80	2.40		1.80	2.40	径1.0~3.0cmの礫を含む中粒砂主体の盛土	・盛土に含まれる礫率及び礫率を追記した			
7	2.40	3.00		2.40	3.00	径1.0~4.0cmの礫が主体の盛土	・盛土に含まれる礫率及び礫率を追記した			
8	3.00	4.00	スライムにより判別不可	3.00	4.11	スライムにより判別不可 細~中粒砂からなり、礫はほとんど含まない	・土質の特徴を追記した ・コアに合わせて下端深度を変更した	3.00	4.11	3.00~4.11m:スライム 細~中粒砂からなり、礫はほとんど含まない。
9	4.00	4.10	スライムにより判別不可	4.00	4.10	スライムにより判別不可	・コア観察カードが4m区切りで、4.00mの記事を2つに分けてそれぞれのカードに記載されていたので、1つの記事にまとめた			
10	4.10	4.30	・礫率40%の砂礫でくさり礫や半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・礫はGP ・礫径は2~30mmの垂角礫主体	4.11	4.30	・礫率30%の礫質砂でくさり礫や半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・礫はGP ・礫径は2~30mmの垂角礫主体 ・4.15m:傾斜0°、幅3~5mmの暗褐色粘土、コア供回りによるもの	・コアに合わせて上端深度を変更した ・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・礫率を見直したことにより土質名を変更した ・傾記の修正(粗→垂) ・礫径を最小値~最大値で記載しており、「主体」という表現が適さないため「主体」を削除した ・人為的なコアの傾斜部を追記した	4.11	4.30	4.11~4.30m:礫質砂 礫率30%の礫質砂でくさり礫や半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 礫は花崗岩。 礫径は2~30mmの垂角礫。 4.15mには、コアの供回りによる傾斜0°、幅3~5mmの暗褐色粘土を挟む。
11	4.10	4.30	(地質名欄)礫質砂	4.11	4.30	(地質名欄)礫質砂	・上記の上端深度の変更に伴い、深度を変更した ・礫率を見直したことにより変更した	4.11	4.30	(地質名欄)礫質砂
12	4.30	4.65	・礫率20~30%で半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・4.40~4.50m付近に粘土状の細粒部が認められる ・酸化層理が認められる ・礫径はGP ・礫径は2~30mmの垂角礫主体	4.30	4.65	・礫率10~15%で半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・4.40~4.50m付近に粘土状の細粒部が認められる。 スライム ・酸化層理が認められる ・礫径はGP ・礫径は2~30mmの垂角礫主体	・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・傾記の修正(粗→垂) ・粘土状の細粒部はコア引き上げた場所に溜まった泥材であると判断し、スライムと追記した ・酸化層理は上記の細粒部を考慮しており、それを除くと酸化層理は見られないため削除した ・礫径を最小値~最大値で記載しており、「主体」という表現が適さないため「主体」を削除した	4.30	4.65	4.30~4.65m:礫質砂 礫率10~15%で半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 4.40~4.50m付近はスライムで、粘土状の細粒部からなる。 礫は花崗岩。 礫径は2~30mmの垂角礫。
13	4.65	6.80	・礫率60~80% ・砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂 ・4.65~5.85m付近は径8mm以上の巨礫が多く含まれる ・5.40~5.80m付近で一部礫に明赤皮(2.5YR7/1)や明褐皮(7.5YR7/1)、輝赤赤帯(2.5YR2/3)が認められる ・6.15~6.30m付近は径8mm以上の巨礫が著しく減少する ・6.30~6.80m付近は径8mm以上の半くさり礫の巨礫が多く含まれる ・礫径はGP ・礫径は2~50mmの垂角礫から垂角礫主体一部最大径200mmの巨礫あり	4.65	6.80	・礫率50% ・砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂 ・4.65~5.85m付近は径8mm以上の巨礫が多く含まれる ・5.40~5.80m付近で一部礫に明赤皮(2.5YR7/1)や明褐皮(7.5YR7/1)、輝赤赤帯(2.5YR2/3)が認められる ・5.72~5.74m:暗褐色シルト(スライム) ・6.15~6.30m付近は径8mm以上の巨礫が著しく減少する ・6.30~6.80m付近は径1cm以上の半くさり礫の巨礫が多く含まれる ・礫径はGP ・礫径は2~50mmの垂角礫から垂角礫主体一部最大径200mmの巨礫あり	・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・傾記の修正(粗→垂) ・スライム部分として、深度と土質名を追記した ・巨礫は20mm以上の礫に使用するため「巨」を削除した ・1cm以上の礫を多く含むため、1cm以上に変更した	4.65	6.80	4.65~6.80m:砂礫 礫率50% 砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂。 4.65~5.85m付近は径5cm以上の礫が多く含まれる。 5.40~5.80m付近には一部明赤灰色、明褐色、暗褐色の礫が認められる。 5.72~5.74m:暗褐色シルト(スライム) 6.15~6.30m付近は礫が著しく減少する。 6.30~6.80m付近は径1cm以上の半くさり礫の礫が多く含まれる。 礫は花崗岩。 礫径は2~50mmの垂角礫~垂角礫主体、一部最大径200mmの礫あり。
14	6.80	6.80	スライムのため判別不可	6.80	6.80	スライムのため判別不可 シルト混じり細~中粒砂	・土質の特徴を追記した	6.80	6.80	6.80~6.80m:スライム シルト混じり細~中粒砂からなる。
15	6.80	7.15	・礫率20~30%で半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・礫径はGP ・礫径は2~30mmの垂角礫主体	6.80	7.15	・礫率5~10%で半くさり礫を多く含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・礫径はGP ・礫径は2~30mmの垂角礫主体	・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・上記の礫率と礫と判断できるものだけの形番(垂角→垂角)に変更した ・傾記の修正(粗→垂)	6.80	7.15	6.80~7.15m:礫質砂 礫率5~10%で半くさり礫を多く含む。 砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。 礫は花崗岩。 礫径は2~30mmの垂角礫主体。

# H27-B-1 7.15~14.84m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事					
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
16	7.15	7.30	-有機物を多く含む軟食土壌	7.15	7.30	・有機物を多く含む有機質土	用語の統一	7.15	7.30	7.15~7.30m:有機質土 有機物を多く含む。	
17	7.30	7.55	・礫率20~30%で半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・礫径は2~30mmの歪円礫主体	7.30	7.55	・礫率0~10%で半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・礫径はGP ・礫径は2~30mmの歪円礫主体	・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実 に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・上記の確実と判断できるものだけの形態(歪円 →歪角)に変更した ・誤記の修正(粗→細)	7.30~7.55m:極細じり砂 ・礫率5~10%で半クサリ礫を多く含む。 ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。 ・礫径は花崗斑岩。 ・礫径は2~30mmの歪円礫主体。			
18	7.55	8.00	スライムのため判別不可	7.55	8.00	スライムのため判別不可 シルト混じり細粒砂	・土質の特徴を追記した	7.55	8.00	7.55~8.00m:スライム シルト混じり細粒砂からなる。	
19	8.00	8.80	スライムのため判別不可	8.00	8.80	スライムのため判別不可	・コア観察カードが4m区切りで、8.00mで記事を2つに 分けてそれぞれのカードに記載されていたので、1つの 記事にまとめた	-	-	-	
20	8.80	9.50	(地質名欄)砂礫	8.80	9.50	(地質名欄)極細じり砂	・礫率を見直したことにより変更した	8.80	9.50	(地質名欄)極細じり砂	
21	8.80	9.50	・礫率30~40%で半クサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が 認められる黒色土層砂層共に55°傾斜し全体の幅は 10cm(黒色土層砂層4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる ・礫径GP ・礫径2~30mmの歪角礫~歪円礫主体	8.80	9.50	・礫率10~15%で半クサリ礫や半クサリ礫を多く含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・8.75~8.85m付近はスライムのため判別不可 ・8.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が 認められる黒色土層砂層共に55°傾斜し全体の幅は 10cm(真層は黒色土2cm砂層4cm下2cm) ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる ・礫径GP ・礫径2~30mmの歪角礫~歪円礫主体	・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実 に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・誤記の修正(粗→細) ・真層であることを明記した ・真層を最小値~最大値で記載しており、「主体」という 表現が適さないため「主体」を削除した	8.80	9.50	8.60~9.80m:極細じり砂 ・礫率10~15%で半クサリ礫や半クサリ礫を多く含む。 ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 ・8.75~8.85m付近はスライムを挟む。 ・9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる。 ・黒色土層、砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(真層は黒色土2cm、砂 4cm、下2cm)。 ・黒色土層(上下)中に植物片が認められる。 ・礫径は花崗斑岩。 ・礫径2~30mmの歪角礫~歪円礫。	
22	9.50	10.00	スライムのため判別不可	9.50	10.00	スライムのため判別不可 シルト混じり細~中粒砂	・土質の特徴を追記した	9.50	10.00	9.50~10.00m:スライム シルト混じり細~中粒砂からなる。	
23	10.00	10.85	・礫率70~80%で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる ・礫径GP一部AP含む ・礫径2~100mmの歪角礫~歪円礫主体、一部最大径 200mmの巨礫あり	10.00	10.85	・礫率90%以上で半クサリ礫を一部含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる ・礫径GP一部AP含む ・礫径2~200mmの歪角礫~歪円礫主体、一部最大径 300mmの巨礫あり	・強風化し礫の輪郭が不明瞭になっているため、確実 に礫と判断できるものだけで礫率を見直し、変更した ・上記の確実と判断できるものだけの形態(歪円 →歪角)に変更した ・誤記の修正(粗→細) ・礫径の範囲が広すぎて、「主体」という表現が適さない ため、礫径の最小値~最大値で記載するように変更 した	10.00	10.85	10.00~10.85m:砂礫 ・礫率90%以上で半クサリ礫を一部含む。 ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる。 ・礫径は花崗斑岩の一部アプライトを含む。 ・礫径2~200mmの歪角礫~歪円礫。	
24	10.85	11.05	スライムのため判別不可	10.85	11.05	スライムのため判別不可 シルト混じり細粒砂	・土質の特徴を追記した	10.85	11.05	10.85~11.05m:スライム シルト混じり細粒砂からなる。	
25	11.05	11.85	・礫率50~60%で半クサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる ・礫径GP ・礫径2~100mmの歪角礫~歪円礫主体	11.05	11.85	・礫率50~60%で半クサリ礫~半クサリ礫を含む ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる ・礫径GP ・礫径2~100mmの歪角礫~歪円礫主体	・誤記の修正(粗→細) ・礫径を最小値~最大値で記載しており、「主体」という 表現が適さないため「主体」を削除した	11.05	11.85	11.05~11.85m:砂礫 ・礫率50~60%で半クサリ礫~半クサリ礫を含む。 ・砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。 ・径0.5~1cmの石英が多く含まれる。 ・礫径は花崗斑岩。 ・礫径2~100mmの歪角礫~歪円礫。	
26	11.85	12.00	スライムのため判別不可	11.85	12.10	スライムのため判別不可 シルト混じり中粒砂	・土質の特徴を追記した	11.85	12.10	11.85~12.10m:スライム シルト混じり中粒砂からなる。	
27	12.00	12.10	スライムのため判別不可	12.00	12.10	スライムのため判別不可	・コア観察カードが4m区切りで、12.00mで記事を2つに 分けてそれぞれのカードに記載されていたので、1つの 記事にまとめた	-	-	-	
28	12.10	12.49	(地質名欄)砂	12.10	12.49	(地質名欄)粗砂	・記事欄に合わせて変更した	12.10	12.49	(地質名欄)粗砂	
29	12.10	12.50	・礫率5%未満で半クサリ礫を含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・礫径GP ・礫径2~30mmの歪円礫主体 (層岩)	12.10	12.49	・礫率5%未満で半クサリ礫を含む ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂 ・礫径GP ・礫径2~30mmの歪円礫主体 (層岩)	・誤記の修正(コアと整合している深さの下端深 さに修正) ・誤記の修正(粗→細) ・礫径を最小値~最大値で記載しており、「主体」という 表現が適さないため「主体」を削除した	12.10	12.49	12.10~12.49m:粗粒砂 ・礫率5%未満で半クサリ礫を含む。 ・砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。 ・礫径は花崗斑岩。 ・礫径2~30mmの歪円礫。	
30	-	-	-	12.49	94.07	花崗斑岩	・地質名欄に合わせて追記した	12.49	94.07	12.49~94.07m:花崗斑岩	
31	12.49	14.84	D 強く風化し土砂状を呈するが、岩組織は残留する割れ 目は一部消滅しているが、多くは残留している。また、 時々灰白色の粘土が脈状に分布する 割れ目は10~30°の低角度系が主体	12.49	14.84	D 強く風化し土砂状を呈するが、岩組織は残留する割れ 目は一部消滅しているが、多くは残留している。また、 時々粗1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する 割れ目は10~30°の低角度系が主体	・粘土の層の記載を追記した	12.49	14.84	12.49~14.84m:D 強く風化し土砂状を呈するが、原岩組織は残留する。 割れ目は一部消滅しているが、多くは残留している。 時々、粗1mm程度の灰白色の粘土が脈状に分布する。 割れ目は10~30°の低角度系が主体。	

# H27-B-1 14.84~28.00m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事の削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示))		上端深度	下端深度		記事
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容
32	14.84	24.44	CL ・全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以深では随々マンガン鉱染伴う。 15.22~15.44mは硬さCの硬質岩片が残留している	-	-	-	14.84	24.44	14.84~24.44m:CL 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目ぞいに風化で砂状化が進んでいる。 18.30m以深では随々マンガン鉱染伴う。 15.22~15.44m:硬さCの硬質岩片が残留している。
33	-	-	-	15.22	15.44	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Aランク	15.22	15.44	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Aランク
34	16.00	17.62	割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する	-	-	-	16.00	17.62	16.00~17.62m:割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する。
35	16.75	16.84	φ30~40 m/mの硬さ「C」の硬質岩片が塊状に分布	-	-	-	16.75	16.84	16.75~16.84m:径30~40mmの硬さ「C」の硬質岩片が塊状に分布。
36	17.44	17.44	割れ目ぞいに幅10~40m/mで砂状化する	17.44	17.44	傾斜15°の割れ目ぞいに幅1~4mm/mで砂状化する	17.44	17.44	17.44m:傾斜15°の割れ目ぞいに幅1~4mmが砂状化する。
37	18.10	22.19	上下に比べ割れ目少なくなる(IV)	-	-	-	18.10	22.19	18.10~22.19m:上下に比べ割れ目少なくなる(コアの形状IV)。
38	18.31	18.31	幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する	18.31	18.31	傾斜10° 幅10m/mマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する	18.31	18.31	18.31m:傾斜10°で幅10mmマンガン鉱染が脈状に分布、黒褐色化する。
39	19.60	19.60	割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する	19.60	19.60	傾斜12°の割れ目ぞいに幅10m/m砂状化する	19.60	19.60	19.60m:傾斜12°の割れ目ぞいに幅10mm砂状化する。
40	-	-	-	20.37	20.42	傾斜10°程度の割れ目に沿って暗褐色の岩片混じり粘土を幅2~10mmで挟む。一部は不規則な割れ目中に流入する。	20.37	20.42	20.37~20.42m:傾斜10°の割れ目ぞいに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目に入っている。
41	21.16	22.01	割れ目ぞいに幅10~30m/mで砂状化する部分がある	-	-	-	21.16	22.01	21.16~22.01m:割れ目ぞいに幅10~30mmで砂状化する部分がある。
42	22.01	22.19	硬さ「C」の硬質部が残留	-	-	-	22.01	22.19	22.01~22.19m:硬さ「C」の硬質部が残留。
43	-	-	-	22.01	22.19	(コアの硬さ欄)Cランク	22.01	22.19	(コアの硬さ欄)Cランク
44	23.05	23.80	20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10 m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している	23.05	23.80	20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺でφ10 m/m程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。 割れ目面にマンガン汚染がみられる	23.05	23.80	23.05~23.80m:20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺で径10mm程度に細片化。岩片も硬さ「E」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。
45	-	-	-	23.16	23.16	傾斜12°の割れ目に沿って幅15mm程度で緑色化している。	23.16	23.16	23.16m:傾斜12°の割れ目ぞいに幅15mmで緑色化する。
46	24.16	24.16	以深では硬さ「E」も含む全体に脆い岩片多い	-	-	-	24.16	24.16	24.16m以深では硬さ「E」も含む。全体に脆い岩片多い。
47	24.44	24.71	D 風化で土砂状を呈する 岩組織や割れ目はほぼ消滅している	-	-	-	24.44	24.71	24.44~24.71m:D 風化で土砂状を呈する。 岩組織や割れ目はほぼ消滅している。
48	24.44	24.71	(岩線区分欄)D	24.44	24.71	(岩線区分欄)CL	24.44	24.71	(岩線区分欄)CLに含める
49	24.71	26.62	CL 10~30°割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する	-	-	-	24.71	26.62	24.71~26.62m:CL 10~30°割れ目が主体で割れ目ぞいの一部は砂状化する。
50	-	-	-	25.03	25.03	傾斜18°の割れ目ぞいに幅7mmの石英脈、マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化を呈する。	25.03	25.03	25.03m:傾斜18°の割れ目ぞいに幅7mmの石英脈、マンガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。
51	26.00	26.00	26m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む	26.00	26.00	26.00m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む	26.00	26.00	26.00m以深では割れ目ぞいの砂状化が更に進む。
52	26.62	27.60	D 27.00m以深では割れ目や岩組織は残留するが27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂塊状で採取されている。(27.00~27.10mは掘削時に消失)	-	-	-	26.62	27.60	26.62~27.60m:D 27.00m以深では割れ目や原岩組織は残留するが、27.10m以深では両者ともほぼ消滅し砂塊状で採取されている。 (27.00~27.10m:コア欠如)
53	27.60	28.00	CL 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を含み細片化し脆いものも含まれている	-	-	-	27.60	28.00	27.60~28.00m:CL 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を含み細片化し脆いものも含まれている。

# H27-B-1 28.00~34.00m

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)		
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示))		上端深度	下端深度		記事	選定した記事内容
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか?	上端深度	下端深度	追加変更した情報が正しく転記されているか?				
54	28.00	28.19	ノンコア(D)	28.00	28.19	コア欠如	用指の統一(ノンコア⇒コア欠如) コア欠如区間のため、岩線の記載は削除した	28.00	28.19	28.00~28.19m:コア欠如
55	28.00	28.19	(岩線区分欄)D	28.00	28.19	(岩線区分欄)空欄	コア欠如区間のため、空欄にした	28.00	28.19	(岩線区分欄)空欄
56	28.19	28.61	CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む	-	-	-	-	28.19	28.61	28.19~28.61m:CL 割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。
57	28.61	28.68	ノンコア(D)	28.61	28.68	コア欠如	用指の統一(ノンコア⇒コア欠如) コア欠如区間のため、岩線の記載は削除した	28.61	28.68	28.61~28.68m:コア欠如
58	28.61	28.68	(岩線区分欄)D	28.61	28.68	(岩線区分欄)空欄	コア欠如区間のため、空欄にした	28.61	28.68	(岩線区分欄)空欄
59	28.68	28.84	CL 割れ目ぞいで砂状化する	-	-	-	-	28.68	28.84	28.68~28.84m:CL 割れ目ぞいで砂状化する。
60	28.84	30.74	D 締った砂状化を呈する φ10~20m/m程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し、砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる	28.84	30.74	D 締った砂状化を呈する φ10~30m/m程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し、砂礫状を呈する 30m以深では岩片量が多くなる	岩片量に差が見られないため削除した	28.84	30.74	28.84~30.74m:D 締った砂状化を呈する。径10~30mm程度の硬さ「D」岩片が礫状に締った砂状部中に分布し、砂礫状を呈する。
61	-	-	-	29.00	29.09	コア欠如	ノンコア区間を追記した	29.00	29.09	29.00~29.09m:コア欠如
62	30.17	30.50	マンガン筈染伴う。	-	-	-	-	30.17	30.50	30.17~30.50m:マンガン筈染伴う。
63	30.30	30.53	石英多く晶出(一部は変質による2次石英と推定される)	-	-	-	-	30.30	30.53	30.30~30.53m:石英多く晶出(一部は変質による2次石英と推定される)。
64	-	-	-	30.38	30.38	傾斜5°、幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む	周囲と異なる特徴を追記した	30.38	30.38	30.38m:傾斜5°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。
65	30.74	32.48	CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74~31.30m間は風化による黄褐色化が進むが軟化は伴わない	30.74	32.48	CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む 上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない	変態に合わせて変更した(風化⇒酸化汚染)	30.74	32.48	30.74~32.48m:CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む。 上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが軟化は伴わない。
66	31.05	31.23	熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン筈染と風化も伴い全体として黄褐色の濃い色調を呈する	31.05	31.23	熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン筈染と酸化汚染も伴い全体として黄褐色の濃い色調を呈する	変態に合わせて変更した(風化⇒酸化汚染)	31.05	31.23	31.05~31.23m:熱水変質による粘土化変質、珪化変質が著しく、前者では白色系粘土、後者では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン筈染と酸化汚染も伴い全体として黄褐色の濃い色調を呈する。
67	-	-	-	31.47	31.47	傾斜35°、幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む	周囲と異なる割れ目の特徴を追記した	31.47	31.47	31.47m:傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂混じりシルトを挟む。
68	31.70	32.20	割れ目ぞいの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片はφ10~30m/m程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる	-	-	-	-	31.70	32.20	31.70~32.20m:割れ目ぞいの砂状化が進み「砂混じり岩片状」を呈する。岩片は径10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる。
69	32.48	32.70	D 岩組織と割れ目はほぼ残留している。	-	-	-	-	32.48	32.70	32.48~32.70m:D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。
70	32.48	32.70	(岩線区分欄)D	32.48	32.70	(岩線区分欄)CL	区間長が50cm未満のため、周囲の岩線に含めた	32.48	32.70	(岩線区分欄)CLに含める
71	32.70	34.54	CL 割れ目ぞいに厚さ1~2m/m程度で薄く砂状化部を呈し、一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差	-	-	-	-	32.70	34.54	32.70~34.54m:CL 割れ目ぞいに厚さ1~2m/m程度で薄く砂状化部を呈し、一部で砂状化が進行する部分もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差。
72	33.17	33.17	15°割れ目が75°割れ目を切っている変位量10m/m、石ズレ	33.17	33.17	15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目を止まっている。切っ掛け(変位量10m/m、右ズレ)。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。以上から、変位量の記載を削除した	15°割れ目でずれているように見える75°割れ目のうち、浅い側の75°割れ目は15°割れ目と交差し、一方、深い側の75°割れ目は15°割れ目を止まっており、15°割れ目を挟んだ浅い側には分布しない。以上から、変位量の記載を削除した	33.17	33.17	33.17m:15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目を止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。
73	33.40	33.40	15°割れ目ぞいに厚さ20m/m砂状化	-	-	-	-	33.40	33.40	33.40m:15°割れ目ぞいに厚さ20mm砂状化。
74	33.76	33.76	5°割れ目ぞいに厚さ10m/m砂状化	-	-	-	-	33.76	33.76	33.76m:5°割れ目ぞいに厚さ10mm砂状化。
75	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低い着割れ目多くハンマーの打撃で薄片化する。また、割れ目も消滅しかかっている	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低い着割れ目多くハンマーの打撃で薄片化する。また、割れ目も消滅しかかっている	砂着割れ目は認められず、着割れ目が認められたため適正化した	34.00	34.00	34.00m以深、密着度の低い着割れ目多くハンマーの打撃で薄片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。



# H27-B-1 34.03~42.41m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事	適正化した記事内容
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
76	34.03	34.03	40° 幅2~3 m/m石英脈、密着して連続	-	-	-	34.03	34.03	34.03m:40° 幅2~3mm石英脈、密着して連続。	-
77	34.54	34.59	(層級区分欄)D	34.54	34.59	(層級区分欄)CL	34.54	34.59	(岩級区分欄)CLに含める	-
78	34.54	34.59	破砕帯・主せん断面34.59m(11°)	34.54	34.59	破砕帯・最新活動面34.59m(11°) 直線的な細粒部伴う(下層)	34.54	34.59	●34.54~34.59m:破砕部 34.54~34.59m:粘土混じり岩片状部(H) 上端10~40° で大きく湾曲、下端11° で直線的に連続。径5mmの花崗岩片岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。幅40~50mm。 34.59m:凝縮しり粘土状部(Hc-2) 上下端とも11° で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。灰黄褐色を呈する。幅3~4mm。	種軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
79	34.54	34.59	H 上端10~40° で大きく湾曲、下端11° で直線的に連続。径5m/mGp岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)厚さ40~50m/m	34.54	34.59	H 上端10~40° で大きく湾曲、下端11° で直線的に連続。径5m/mGp岩片主体で岩片間は粘土状~砂状で「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)厚さ40~50m/m 軟質、含まれる細粒部は局所的で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	34.54	34.59	・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
80	34.56	34.59	Hc-2 上下端とも11° で直線的に連続。径1m/m石英粒を10%程度含む。色調は灰黄褐色(10YR5/2)、厚さ3~4m/m	34.56	34.59	Hc-2 上下端とも11° で直線的に連続。径1m/m石英粒を10%程度含む。色調は灰黄褐色(10YR5/2)、厚さ3~4m/m	34.56	34.59	・破砕部内物質を追記した ・硬軟を追記した	
81	34.59	35.37	CL 細片化し易いゆず割れ目が多い	34.59	35.37	CL 細片化し易いゆず割れ目が多い 10~30° と50~70° 程度の割れ目がみられる。	34.59	35.37	34.59~35.37m:CL 細片化し易いゆず割れ目が多い。 10~30° と50~70° の割れ目がみられる。	-
82	35.37	37.15	D 酸化著しく硬さ[E]主体であるが層組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中右的に含む	-	-	-	35.37	37.15	35.37~37.15m:D 酸化著しく硬さ[E]主体であるが原岩組織や割れ目はほぼ残留している。部分的に硬質岩片を中右的に含む。	-
83	33.00	36.00	コアなし(OTスキヤン?)	33.00	36.00	コアなし(OTスキヤン?)	-	-	-	-
84	36.09	36.26	36.09~36.26m、36.53~36.62mには硬さ「C」の硬質部が残留する。	-	-	-	36.09	36.26	36.09~36.26m、36.53~36.62m:硬さ「C」の硬質部が残留する。	-
85	-	-	-	36.09	36.26	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	36.09	36.26	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-
86	-	-	-	36.53	36.62	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	36.53	36.62	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	-
87	36.70	36.70	36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が塊状に残留する。	-	-	-	36.70	36.70	36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が塊状に残留する。	-
88	37.15	42.00	CL 0~30° 割れ目主体で、割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。	-	-	-	37.15	42.00	37.15~42.00m:CL 0~30° 割れ目主体で、割れ目ぞいの一部で砂状化する部分も含む。	-
89	37.80	37.80	5° 割れ目ぞい幅10~20m/m砂状化、微細な白雲母が晶出している。	37.80	37.80	5° 割れ目ぞい幅10~20m/m砂状化、微細な白雲母が晶出している。	37.80	37.80	37.80m:5° 割れ目ぞい幅10~20mm砂状化、微細な白雲母が晶出している。	-
90	38.56	38.74	φ20~30mの硬さ「C」岩片が残留する。	-	-	-	38.56	38.74	38.56~38.74m:径20~30mmの硬さ「C」岩片が残留する。	-
91	39.26	39.70	硬さ「C」のφ30~50m/m岩片が多く残留する。	-	-	-	39.26	39.70	39.26~39.70m:硬さ「C」の径30~50mm岩片が多く残留する。	-
92	39.90	39.90	幅10~20m/m、0° で淡緑色が分布(緑泥石濃集部と推定される)。	-	-	-	39.90	39.90	39.90m:幅10~20mm、0° で淡緑色が分布(緑泥石濃集部と推定される)。	-
93	40.32	40.77	割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂塊状を呈し、上下に比べやや脆くなる。	40.32	40.77	割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂塊状を呈し、上下に比べやや脆くなる。 低角度の割れ目の他、60~80° の割れ目も分布する。	40.32	40.77	40.32~40.77m: 割れ目ぞいの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がそのなかに残留し、全体として砂塊状を呈し、上下に比べやや脆くなる。低角度の割れ目の他、60~80° の割れ目も分布する。	-
94	41.50	41.50	2° 割れ目ぞい幅30m/m淡緑色化(緑泥石化)し、φ0.5~1m/mの微細な白雲母が晶出している。	41.50	41.50	2° 割れ目ぞい幅30m/m淡緑色化(緑泥石化)し、φ0.5~1m/mの微細な白雲母が晶出している。	41.50	41.50	41.50m:2° 割れ目ぞい幅30mm淡緑色化(緑泥石化)し、φ0.5~1mmの微細な白雲母が晶出している。	-
95	41.95	42.00	コアチューブ引上時に壊され塊状コア化したもの、硬さは「D」	-	-	-	41.95	42.00	41.95~42.00m: コアチューブ引上時に壊され塊状コア化したもの。硬さは「D」。	-
96	42.00	42.41	D 一部の割れ目と原岩組織は残留している。	-	-	-	42.00	42.41	42.00~42.41m:D 一部の割れ目と原岩組織は残留している。	-

# H27-B-1 42.24~44.53m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		選定した記事内容
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
97	42.24	42.28	上端15'、下端18' 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4)・幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。	上端15'、下端18' 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4) 上端側は緑色化している。 幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱染がみられる。	42.24	42.28	42.24~42.28m:上端15'、下端18' 割れ目に囲まれ、厚さ30mm軟質・淡黄色粘土化(変質度4)。上端側は緑色化している。幅1mm白色粘土脈も所々に点在する。マンガン鉱染がみられる。	
98	42.41	42.49	破砕帯(主せん断面42.43m)	破砕帯(主せん断面42.43m) 最新活動面は42.41mか42.43mの可能性ある	42.41	42.49	●42.41~42.49m:破砕帯 42.41~42.43m: 塊状粘土状部(Hc-2) 上下端各々63' 54' で波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒はわずか。花崗斑岩片を計10%程度含む。にぶい黄褐色を呈する。幅10~15mm。 42.43~42.45m: 塊状粘土状部(Hc) 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。軟質で、径1~2mmの石英粒、径5~10mmの粘土花崗斑岩片を計20~30%含む。幅5~10mm。 42.45~42.49m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)、厚さ40m/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
99	42.41	41.43	Hc-2 上下端各々63'、54' で波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土Gp岩片計10%程度含む軟質粘土(カウジ)、色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)、厚さ10~15m/m	Hc-2 上下端各々63'、54' で波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土Gp岩片計10%程度含む軟質粘土(カウジ)。色調はにぶい黄褐色(10YR5/3)、厚さ10~15m/m	42.41	42.43	・下端深部の振記 ・破砕帯内物質を追記した ・表現の統一(カウジーHc-2に含んで表現)	
100	41.43	42.45	Hb 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土Gp岩片計20~30%含む軟質粘土状、色調は灰白色(2.5Y8/2)、厚さ5~10m/m	Hb 上端54'、下端35' でいずれも波打って連続。φ1~2m/m石英粒、φ5~10m/m粘土Gp岩片計20~30%含む軟質粘土状を呈する。色調は灰白色(2.5Y8/2)、厚さ5~10m/m 灰白色粘土は不連続である。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。	42.43	42.45	・上端深部の振記 ・細粒部の連続性を追記した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
101	42.45	42.49	Hj 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。φ5~20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)、厚さ40m/m	Hj 上端35'、下端18' でいずれも波打って連続。下端の一部はやや不明瞭。φ5~20m/mの岩片からなり、岩片の一部は粘土状~砂状。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR6/3)、厚さ40m/m やや軟質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	42.45	42.49	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
102	42.49	44.24	D 著しく軟化するが岩組織と割れ目の一部は残留している。	D 著しく軟化するが岩組織と割れ目の一部は残留している。10~30°及び60~80°程度の割れ目が見られる。	42.49	44.24	42.49~44.24m:D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目の一部は残留している。傾斜10~30°及び60~80°程度の割れ目がみられる。	
103	43.45	43.48	厚さ25m/m・23' の石英脈が硬質で分布		43.45	43.48	43.45~43.48m:厚さ25mm・23' の石英脈が硬質で分布。	
104	44.24	44.53	破砕帯(主せん断面44.31m)	破砕帯(最新活動面44.31m) 直線的な粘土を伴う	44.24	44.53	●44.24~44.53m:破砕帯 44.24~44.31m: 粘土質塊状部(Hb) 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む半固結状の「硬質粘土」、色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。 44.31m: 粘土状部(Hc-1) 上下端とも35' で直線的に連続。軟質で、径1mmの石英粒をこくわず(5以下)含む軟質粘土からなる(カウジ)。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m。 44.31~44.53m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。径5mm前後の粘土化した花崗斑岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる。灰褐色~淡黄色を呈する。幅140~200mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
105	44.24	44.31	Hb 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む半固結状の「硬質粘土」、色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。	Hb 上端、幅1mm灰赤色軟質粘土で5~13' で湾曲して、下端35' で直線的に連続。φ2~3m/m石英粒、φ5~10m/m(最大25m/m)Gp岩片を30%程度含む半固結状の「硬質粘土」、色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。 網目状に分布する。やや硬質で、含まれる細粒部は原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。半固結状の「硬質粘土」、色調は灰黄(2.5Y7/2)、厚さ45~65m/m。	44.24	44.31	・破砕帯内物質を追記した ・下級の直線性について、Hc-1の上端と不整合であったため、コアと整合する直線的に変更した ・岩片を主体とすることから「粘土質塊状部」に変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・用語の統一(半固結状⇒やや硬質)	
106	44.31	44.31	Hc-1 上下端とも35' で直線的に連続。φ1m/mの石英粒をこくわず(5以下)含む軟質粘土からなる(カウジ)。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m	Hc-1 上下端とも35' で直線的に連続。φ1m/mの石英粒をこくわず(5以下)含む軟質粘土からなる(カウジ)。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ1~2m/m	44.31	44.31	表現の統一(カウジーHc-1に含んで表現) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
107	44.31	44.53	Hj 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる。粘土混じり岩片からなる。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄(2.5Y8/3)、厚さ140~200m/m	Hj 上端35' で直線的に、下端70' で波打って連続。φ5m/m前後の粘土化したGp岩片と岩片間は白色軟質の脈状~網状粘土脈からなる。粘土混じり岩片を呈する。色調は灰褐(7.5Y6/2)~淡黄(2.5Y8/3)、厚さ140~200m/m やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	44.31	44.53	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	

# H27-B-1 44.53~46.12m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事の削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)		記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
108	44.53	44.83	破砕帯(主せん断面44.06m)	破砕帯(最新活動面44.66m) 最も直線的な粘土状部	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面の性状を追記した			●44.53~44.83m:破砕部 44.53~44.86m:粘土混じり岩片状部(H) 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5~10mmの粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調はふいれ(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。
109	44.53	44.86	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調はふいれ(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。	Hj 上端70°で波打って、下端65°で直線的に連続。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の軟質白色粘土(脈状主体)からなり粘土混じり岩片状を呈する。色調はふいれ(7.5YR7/4)~灰白色(2.5Y8/2)、厚さ55m/m。 やや軟質で含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
110	44.86	44.68	Hc-1 65°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)、上下縁側に主せん断面と同方向に幅1~2m/m、長さ5~10m/mの脈状のマンガン鉱染部を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ4~5m/m	Hc-1 65°で上端直線的、下端は一部で波打って連続。φ1m/m石英粒ごく少量(5%以下)含む軟質粘土(ガウジ)、上下縁側に主せん断面と同方向に幅1~2m/m、長さ5~10m/mの脈状のマンガン鉱染部を伴う。色調は灰黄褐色(10YR4/2)、厚さ4~5m/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	・表現の統一(ガウジ→Hc-1)を含んで表現) 主せん断面を直線的なせん断面に変更した 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	44.53	44.83	●44.86~44.88m:粘土状部(Hc-1) 上端65°で直線的に連続。下端65°で一部波打って連続。軟質で、径1mmの石英粒ごく少量(5%以下)含む。上下縁側に直線的なせん断面と同方向に幅1~2mm、長さ5~10mmの脈状のマンガン鉱染部を伴う。灰黄褐色を呈する。幅4~5mm。 44.88~44.70m:硬質粘土状部(Hb) 上端65°で一部波打って、下端50~70°で高曲して連続。やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、径2mm石英粒、径3~5mm粘土化岩片を計20~30%含む。明赤灰色~灰白色を呈する。幅10~20mm。 44.70~44.83m:粘土混じり岩片状部(H) 上端50~70°、下端75~85°でいずれも高曲して連続。下端は幅1mm以下の灰黄褐色軟質粘土脈。径5~10mm粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。灰褐色~淡黄色を呈する。幅20~50mm。
111	44.68	44.70	Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で高曲して連続。φ2m/m石英粒φ3~5m/m粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の硬質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20m/m やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	Hb 上端65°で一部波打って、下端50~70°で高曲して連続。φ2m/m石英粒φ3~5m/m粘土化岩片を計20~30%含む半固結状の硬質粘土状を呈する。色調は明赤灰(2.5Y7/2)~灰白色(5YR8/1)、厚さ10~20m/m やや硬質で、上位の軟質粘土と平行に分布し、連続性及び直線性が良い。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・用語の統一(半固結状⇒やや硬質)			
112	44.70	44.83	Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも高曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~30m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。	Hj 上端50~70°、下端75~85°でいずれも高曲して連続。下端は幅1m/m以下の灰黄褐色(10YR4/2)軟質粘土脈。φ5~10m/m粘土化岩片と岩片間の脈状~網状白色~淡黄色軟質粘土脈からなり、全体として、粘土混じり岩片状を呈する。色調は灰褐(7.5YR6/2)~淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ20~30m/m。岩片間の基質部には黒褐色のマンガン鉱染部が点在する。 やや軟質、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した			
113	44.83	45.36	D	D 強く軟質し、網目状の灰白色粘土が分布。原岩組織は残留する。	・性状を追記した	44.83	45.36	44.83~45.36m:D 強く軟質し、網目状の灰白色粘土が分布する。原岩組織は残留する。
114	45.36	45.39	破砕帯(主せん断面45.39m)	破砕帯(主せん断面46.39m) 最新活動面は45.39mの粘土の上端が下端の可能性がある	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は肉眼で判断できないため削除した			●45.36~45.39m:破砕部 45.36~45.39m:粘土混じり岩片状部(H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はふいれ(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。
115	45.36	45.39	Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5m/m前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はふいれ(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。	Hj 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端は65°で直線的に連続。φ5m/m前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はふいれ(7.5YR7/3)、厚さ5~10m/m。 やや軟質、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	・硬軟、細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	45.36	45.39	45.39m:硬質粘土状部(Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分岐・咬れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒5~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。
116	45.39	45.39	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分岐・咬れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	Hc-2 上下端とも65°で直線的に連続。一部で厚さ1m/mの2本のガウジに分岐・咬れんする。φ1~2m/m石英粒5~10%含むやや軟質な硬質粘土からなる(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR6/2)、厚さ2m/m	・表現の統一(ガウジ→Hc-2)を含んで表現) 粘土の硬軟について見直した			
117	45.39	46.12	D 幅1m/m前後の軟質白色粘土脈が多い。	D 幅1m/m前後の軟質白色粘土脈が多い。 強変質しているが母岩の組織は残留する。	・性状を追記した	45.39	46.12	45.39~46.12m:D 幅1mm前後の軟質白色粘土脈が多い。強変質しているが、原岩組織は残留する。

# H27-B-1 46.12~49.17m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事				
上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				適正化した記事内容	
118	46.12	46.17	46.12	46.17	破砕帯(主せん断面46.17m) 最新活動面は肉眼で認定できない	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は肉眼で認定できないため削除した			●46.12~46.17m:破砕部 46.12~46.16m:粘土質岩片状部(H) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に隙状に分布。全体に「粘土質岩片状」を呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m	
119	46.12	46.17	46.12	46.16	H 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°で大きく湾曲して連続。径5~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に隙状に分布。全体に「粘土質岩片状」を呈する。主せん断面と平行して細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m	H 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に隙状に分布。全体に「粘土質岩片状」を呈する。主せん断面と下位のHe-2の粘土と平行した細かい割れ目や白色粘土細脈(厚さ1m/m)が分布。色調は淡黄色(2.5Y8/3)、厚さ35m/m。やや軟質で含まれる細粒部は割目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	下端深度の誤記修正 ・連続。細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・下端境界の傾斜及び直線性を再直した ・主せん断面を下位のHe-2の粘土に変更した	46.12	46.17	●46.12~46.17m:破砕部 46.12~46.16m:粘土質岩片状部(H) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、下端35°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に隙状に分布。下位のHe-2の粘土と平行した細かい割れ目や幅1mmの白色粘土細脈が分布。淡黄色を呈する。幅35mm。 46.16~46.17m:線面しり粘土状部(Hc-2) 上端35°でやや波打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1~2mm石英粒、径3mm粘土化岩片を20~30%含む。淡黄色~黒褐色を呈する。幅2~10mm。
120	46.17	46.17	46.16	46.17	He-2 上下端とも35~70°で大きく湾曲して連続。径1~2m/m石英粒、径3m/m粘土化岩片を20~30%含む半固結状の粘土(ガウジ)。色調は黒褐(10YR3/1)、厚さ2~10m/m	He-2 上端35°でやや波打って、下端35~70°で大きく湾曲して連続。径1~2m/m石英粒、径3m/m粘土化岩片を20~30%含む半固結状のやや硬質な線面しり粘土からなる(ガウジ)。色調は淡黄(2.5Y8/3)~黒褐(10YR3/1)、厚さ2~10m/m	上端深度の誤記修正 ・色調に淡黄を追記した ・表現の統一(ガウジ→He-2)に含んで表現 ・上端境界の傾斜及び直線性を再直した ・色調を追記した ・用語の統一(半固結状→やや硬質)			
121	46.17	47.40	46.17	47.40	D 変質し、割目状の灰白色粘土が分布	・性状を追記した	46.17	47.40	46.17~47.40m:D 変質し、灰白色粘土が割目状に分布する。	
122	46.73	46.73	46.73	46.73	55°せん断割れ目。幅1m/m赤褐色粘土伴う。	55°せん断割れ目。幅1m/m赤褐色粘土伴う。赤褐色粘土は途中でせん断し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明瞭に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以下に様々な方向で認められる。	・粘土の連続性や周辺の細粒部の状況を追記した ・せん断割れ目としての特徴が認められないことから「せん断」を削除した	46.73	46.73	46.73m:55°割れ目。幅1mmの赤褐色粘土伴う。赤褐色粘土は途中でせん断し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明瞭に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以下に様々な方向で認められる。
123	47.40	47.51	47.40	47.51	破砕帯(主せん断面47.40m) 最新活動面は47.40mの粘土の上端が下端の可能性はある	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 最新活動面は肉眼で認定できないため削除した			●47.40~47.51m:破砕部 47.40m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも58°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m:線面砂状部(Hb) 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。	
124	47.40	47.40	47.40	47.40	Hc-1 上下端とも58°で直線的に連続。径1m/m石英粒を5%程度含むやや軟弱な粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR5/2)、厚さ1~2m/m	・表現の統一(ガウジ→Hc-1)に含んで表現 ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	47.40	47.51	●47.40~47.51m:破砕部 47.40m:粘土状部(Hc-1) 上下端とも58°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m:線面砂状部(Hb) 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。	
125	47.40	47.51	47.40	47.51	Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。径2~3m/m石英粒を20~30%含む軟質な「線面粘土状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m	Hb 上端58°、下端55°でいずれも直線的に連続。径2~3m/m石英粒を20~30%含む軟質な「線面砂状」を呈する。岩片は認められない。色調は黄褐色(10YR5/6)、厚さ70m/m 含まれる細粒部は割目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織はみられない	・砂分を多く含むため破砕部内物質を変更した ・細粒部の連続性・直線性。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した			
126	47.51	47.80	-	-	D 岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。	-	47.51	47.80	47.51~47.80m:D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの挟在物をもつ割れ目が多い。	
127	47.80	46.80	-	-	CL 20~30°割れ目。割れ目に著しく軟化した硬さEも処々に分布する。白色粘土細脈やマンガン筈を伴う。	-	47.80	46.80	47.80~48.80m:CL 20~30°割れ目。割れ目に著しく軟化した硬さEも処々に分布する。白色粘土細脈やマンガン筈を伴う。	
128	48.80	49.17	48.80	49.17	D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 ・49.06mに2°のせん断割れ目(e)が分布。挟在物のない平滑な割れ目。	D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 ・49.06mに2°のせん断割れ目(e)が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。	・せん断割れ目とした割れ目は挟在物を伴わず、割れ目の連続性が乏しいことからせん断割れ目ではないと判断して「せん断」を削除した ・割れ目の連続性について追記した	48.80	49.17	48.80~49.17m:D 著しく軟化するも岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに2°の割れ目(e)が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。

# H27-B-1 49.17~52.50m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示 (変更していないものは「-」で表示))	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
129	49.17	49.27	破砕帯(主せん断面49.20m)		49.17	49.22	破砕部(最新活動面49.17m) 最も直線的な面	用語の統一(破砕帯→破砕部) 最新活動面という用語に統一 せん断面の性状から最新活動面の深度を変更し、最新活動面の性状を追記した。 下位の健岩部との境界が漸移的であるため、破砕部下端深度を見直した			●49.17~49.22m:破砕部 49.17~49.20m:粘土質礫状部(Hb) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を挟む。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を計20~30%含む。 49.20~49.22m:粘土状部(Hc-2) 上端30~36°、下端35~60°で湾曲して連続。軟質で、弱い縞状構造がみられる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。	硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
130	49.17	49.20	Hb 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片を計20~30%含む軟質「粘土質礫状」を呈する。色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐(10YR7/6)。厚さ10~25mm。	49.17	49.20	Hb 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。φ2~3m/m石英粒、φ5m/m粘土化岩片を計20~30%含む軟質「粘土質礫状」を呈する。上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土脈を挟む。色調は灰白(2.5Y8/2)~明黄褐(10YR7/6)。厚さ10~25mm/m。縞状部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	礫主体であるため粘土質礫状に変更した 縞状部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した。 上端に挟む粘土脈を追記した	49.17	49.22			
131	49.20	49.22	Hc-2 上端30~36°、下端35~60°で湾曲して連続。φ1~2m/m石英粒を5~10%含む軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐色(10YR7/6)。厚さ7~15mm/m	49.20	49.22	Hc-2 上端30~36°、下端35~60°で湾曲して連続。φ1~2m/m石英粒を5~10%含む軟質粘土からなる縞状部を挟む。色調は明黄褐色(10YR7/6)。厚さ7~15mm/m 弱い縞状構造がみられる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	表現の統一(ガウジ→Hc-2に含んで表現) 内部構造について追記した 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した					
132	49.22	49.27	Hj 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒、φ5~10m/m岩片(硬さ「D」「C」)と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として「粘土+砂混じり岩片状」を呈する。色調は濃い黄褐色(10YR6/4)。厚さ50mm(コア長)	49.22	49.27	Hj 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。φ2~4m/m石英粒、φ5~10m/m岩片(硬さ「D」「C」)と岩片間の粘土~砂状部からなり、全体として「粘土+砂混じり岩片状」を呈する。色調は濃い黄褐色(10YR6/4)。厚さ50mm(コア長) 上位の破砕部と比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性がない。下位の健岩部との境界は漸移的である	全体的に硬質で、岩片間に分布する粘土脈に系統性が認められず、原岩組織が明瞭に認められる。また、下位の健岩部との境界が漸移的であることから破砕部ではないと判断し、記載を変更した。 厚さは真幅ではないため削除した	49.22	49.27	49.22~49.27m 上端35~60°で湾曲し、下端23°で波打って連続。上位の破砕部と比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も硬く、原岩組織が明瞭に残る。岩片間に分布する粘土脈に系統性がない。下位の健岩部との境界は漸移的である。にぶい黄褐色を呈する。		
133	49.27	49.40	D 20~30° 割れ目が多く残留するが割れ目そいに風化・砂状化が進む	-	-	-		49.27	49.40	49.27~49.40m:D 20~30° 割れ目が多く残留するが割れ目沿いに風化・砂状化が進む。		
134	49.40	51.94	CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布 51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混ざる。	-	-	-		49.40	51.94	49.40~51.94m:CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれに直交~斜交する60°前後の割れ目が分布。 51.06m以深では風化と変質は軽微となる。硬さ「B」と堅硬な岩片も混ざる。		
135	-	-	-	49.45	49.45	傾斜65° 幅15mmのAp脈を挟む	周囲と異なる特徴を追記した	49.45	49.45	49.45m:傾斜65°で幅15mmのアプライト脈を挟む。		
136	51.06	51.94	割れ目や密着度が低い砂着割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。	51.06	51.94	割れ目や密着度が低い潜在割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。	中着割れ目は認められず、潜在割れ目が認められたため適正化した	51.06	51.94	51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い潜在割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。		
137	-	-	-	50.12	50.15	傾斜50° 程度、幅1~2mmで岩片化した赤褐色部を伴う	周囲と異なる特徴を追記した	50.12	50.15	50.12~50.15m:傾斜50°程度、幅1~2mmで岩片化した赤褐色部を伴う。		
138	51.24	51.62	割れ目挟着物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目そいに1mm砂状化するものが多い。処々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。	51.24	51.62	割れ目挟着物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目そいに1mm砂状化するものが多い。処々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。	傾記の修正(挟着物⇒挟在物) 1mmを幅1mmに適正化した	51.24	51.62	51.24~51.62m: 割れ目挟着物は殆んど分布しない。これ以外では割れ目沿いに幅1mm砂状化するものが多い。所々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。		
139	51.63	51.63	15° 割れ目そい厚さ10mmが砂状化	-	-	-		51.63	51.63	51.63m:15° 割れ目沿い厚さ10mmが砂状化。		
140	51.94	52.72	D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。	-	-	-		51.94	52.72	51.94~52.72m:D 著しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。		
141	52.16	52.16	23° 厚さ30m/mの軟質褐色粘土脈、上端にマンガン伴う。	52.16	52.16	23° 厚さ3m/mの軟質褐色粘土脈、上端にマンガン伴う。	傾記の修正(30⇒3)	52.16	52.16	52.16m:23° 厚さ3mの軟質褐色粘土脈を挟む。上端にマンガン伴う。		
142	52.32	52.50	硬さ「D」が主体。	-	-	-		52.32	52.50	52.32~52.50m:硬さ「D」が主体。		

# H27-B-1 52.72~56.47m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
140	52.72	52.81	破砕帯(主せん断面52.81m)	52.72	52.81	破砕部(最新活動面52.81m) 下端の直線的な面	52.72	52.81	●52.72~52.81m:破砕部 52.72~52.80m:粘土混じり岩片状部(H) 上端64°で直線的に、下端14°で波打って連続、径5~10mm岩片(硬さD)と岩片間の幅1~2mm脈状~φ2~5mm斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~90m/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
144	52.72	52.80	H1 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。φ5~10m/m岩片(硬さD)と岩片間の幅1~2m/m脈状~φ2~5m/m斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~90m/m	52.72	52.80	H1 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。φ5~10m/m岩片(硬さD)と岩片間の幅1~2m/m脈状~φ2~5m/m斑点状粘土部からなる。全体的に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は明褐色(7.5YR7/2)、厚さ40~90m/m、や軟質、細粒部は網目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	52.72	52.81	●52.72~52.81m:破砕部 52.72~52.80m:粘土混じり岩片状部(H) 上端64°で直線的に、下端14°で波打って連続、径5~10mm岩片(硬さD)と岩片間の幅1~2mm脈状~径2~5mm斑点状粘土部からなる。明褐色を呈する。幅40~90mm。 52.80~52.81m:線混じり粘土状部(Hc-2) 上端14°で波打って、下端14°で直線的に連続、軟質で、径1~2mm石英粒、径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅7~10mm。	
145	52.80	52.81	Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2m/m石英粒、φ2~3m/m粘土化岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7~10m/m	52.80	52.81	Hc-2 14°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2m/m石英粒、φ2~3m/m粘土化岩片を10~20%含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰白色(7.5YR8/2)、厚さ7~10m/m	52.80	52.81	・表現の統一(ガウジ-Hc-2に含んで表現) ・硬さを多く含むため破砕部内物質を変更した	
146	52.80	53.17	D	52.81	53.17	D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。	52.81	53.17	52.81~53.17m:D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。	
147	53.17	53.22	破砕帯(主せん断面53.17m)	53.17	53.22	破砕部(最新活動面53.17m)	53.17	53.22	●53.17~53.22m:破砕部 53.17m:線混じり粘土状部(Hc-2) 上下端29°で直線的に連続、軟質で、径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m:粘土混じり岩片状部(H) 上端29°、下端27°で、いずれも直線的に連続、径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い、黒褐色化する。幅40mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
148	53.17	53.17	Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/m石英粒を10%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR8/2)、厚さ2m/m	53.17	53.17	Hc-2 29°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/m石英粒を10%程度含む軟質粘土(ガウジ)。色調は灰褐色(7.5YR8/2)、厚さ2m/m	53.17	53.22	・表現の統一(ガウジ-Hc-2に含んで表現) ・硬さを多く含むため破砕部内物質を変更した	
149	53.17	53.22	H1 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染を伴わない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40m/m	53.17	53.22	H1 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。φ5m/m前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなり全体に「粘土混じり岩片状」~「粘土質岩片状」を呈する。上端側と下端側はマンガン鉱染を伴わない黒褐色化する。色調は明褐色(7.5YR7/1)、厚さ40m/m 軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる。	53.17	53.22	・粘土分がそれほど多くないため全体を「粘土混じり岩片状」に変更した ・硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	
150	53.22	53.45	CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 (岩級区分欄)CL	-	-	(岩級区分欄)D	53.22	53.45	53.22~53.45m:CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 (岩級区分欄)Dに含める	
151	53.22	53.45	D 締った砂状を呈する。岩組織と一部の割れ目は残留。	53.22	53.45	(岩級区分欄)D	53.22	53.45	53.45~53.54m:D 締った砂状を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。	
153	53.54	56.66	CL 30~50°程度の割れ目が主体	53.54	56.66	CL 30~50°程度の割れ目が主体	53.54	56.66	53.54~56.66m:CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。	
154	53.87	54.10	石英が多く晶出し、φ10~20m/m斑点状~幅5~15m/m、45~65°の脈状で分布する。	-	-	-	53.87	54.10	53.87~54.10m: 石英が多く晶出し、径10~20mm斑点状~幅5~15mm、45~65°の脈状で分布する。	
155	53.87	54.00	珪質でレンズ状の石英も分布する。	-	-	-	53.87	54.00	53.87~54.00m:珪質でレンズ状の石英も分布する。	
156	54.00	54.60	石英脈はない。割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴わない黒褐色を帯びる。	-	-	-	54.00	54.60	54.00~54.60m: 石英脈はない。割れ目ぞいに砂状化し、全体がやや脆くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴わない黒褐色を帯びる。	
157	-	-	-	54.82	54.82	傾斜50°、幅2mm以下、黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	54.82	54.82	54.82m:傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部緑色化する。	
158	-	-	-	55.00	55.00	傾斜50°、幅2mm程度のマンガンを挟む。	55.00	55.00	55.00m:傾斜50°で幅2mmのマンガンを挟む。	
159	55.25	55.25	55°のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどは含まない。	55.25	55.25	55°のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25m~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土は殆んどは含まない。	55.25	55.25	55.25m:55°のシャープで直線的な割れ目を境とし55.25~56.66mは硬さ「C」で硬質となる。ただし、割れ目ぞいの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。	
160	56.43	56.47	35°~40°割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。	-	-	-	56.43	56.47	56.43~56.47m:35~40°割れ目ぞいに軟化し、硬さ「D」を呈する。	

# H27-B-1 56.66~61.38m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事				
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
161	56.66	56.84	D	-	-	-	56.66	56.84	56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化呈する。φ10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。	-
162	56.66	56.84	(岩級区分)D	56.66	56.84	(岩級区分)CL	-	56.66	56.84	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
163	56.84	58.77	CL	-	-	-	56.84	58.77	58.84~58.77m: CL	-
164	56.84	57.90	硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-	-	-	56.84	57.90	56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目ぞいに風化・砂状化が進む。	-
165	57.75	57.90	コアチューブ引上時に塊状コア化したものと推定される。	-	-	-	57.75	57.90	57.75~57.90m: コアチューブ引上時に塊状コア化したものと推定される。	-
166	57.90	58.34	硬さ「C」岩片主体 2ヶ所に幅1~2mm/m石英脈が密着して分布 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける	57.90	58.34	硬さ「C」岩片主体 2ヶ所(57.96m, 45°, 58.05m, 50°)に幅1~2mm/m石英脈が密着して分布 各割れ目ぞいに軽微なマンガン鉱染を受ける	-	57.90	58.34	具体的な深度を明記した
167	58.28	58.28	割れ目交差部周辺で砂状化	-	-	-	58.28	58.28	58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。	-
168	58.34	58.77	硬さ「D」岩片主体 一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-	-	-	58.34	58.77	58.34~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。 一部の割れ目ぞいで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。	-
169	58.77	59.82	D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。 原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈をはさんでいる。	58.77	59.82	D 風化で著しく軟化し締った砂状化部が主体。 原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈をはさんでいる。	-	58.77	59.82	粘土脈の色調を追記した
170	59.18	59.18	20°、厚さ5mm/mの軟質な灰白色粘土はさむ	-	-	-	59.18	59.18	59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土はさむ。	-
171	59.28	59.48	割れ目は消滅する。(コアが乱れている)	59.28	59.48	割れ目は消滅する。(コアが乱れている)	-	59.28	59.48	人為的なコアの擾乱部であることを追記した
172	20.60	26.85	3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布、砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm/m)はさむ	59.60	59.65	3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布、砂や灰白色の粘土薄層(厚0.5~1mm/m)はさむ	-	59.60	59.65	表記の修正(上端・下端深度) 粘土薄層の色調を追記した
173	59.82	59.85	破砕帯(主せん断面59.85m)D-1 直線的な塊状の細粒部	59.82	59.85	破砕帯(最新活動面59.85m)D-1 直線的な塊状の細粒部	-	59.82	59.85	用語の統一(破砕帯→破砕部) 破砕帯名称を削除した 最新活動面という用語に統一 最新活動面の性状を追記した
174	59.82	59.85	H 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。 φ2~5mm/m石英粒、φ5~10mm/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はこぶしい帯(7.5YR6/3)、厚さ30mm	59.82	59.85	H 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。 φ2~5mm/m石英粒、φ5~10mm/m粘土化岩片と岩片間は粘土化した「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はこぶしい帯(7.5YR6/3)、厚さ30mm やや軟質、細粒部は顆目状に分布、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられる	-	59.82	59.85	硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
175	59.85	59.85	Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒をわずかに(5%以下)含む取羽な粘土(ガウジ)、色調は灰緑(7.5YR6/2)~灰白色(7.5YR8/1)で塊状模様を呈する。厚さ5~7mm/m	59.85	59.85	Hc-1 28°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒をわずかに(5%以下)含む取羽な粘土(ガウジ)、色調は灰緑(7.5YR6/2)~灰白色(7.5YR8/1)で塊状模様を呈する。厚さ5~7mm/m 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織がみられない	-	59.85	59.85	表現の統一(ガウジ→Hc-1)に含んで表現) 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した
176	59.85	60.99	CL 60.54m以浅は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。	59.85	60.99	CL 60.54m以浅は割れ目ぞいに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以深は硬質となり硬さ「C」が主体である。前者では、割れ目ぞいにマンガン鉱染を伴う。 60.32~60.46mの間は黄色味を帯びる。	-	59.85	60.99	周囲と異なる特徴的な色調を追記した
177	60.99	61.38	CH 堅硬、割れ目に挟在物はさまない。	-	-	-	60.99	61.38	60.99~61.38m: CH 堅硬、割れ目に挟在物挟まない。	-
178	60.99	61.38	(岩級区分)CH	60.99	61.38	(岩級区分)CM	-	60.99	61.38	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
										選定した記事内容

# H27-B-1 61.38～68.60m

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度		記事
	上端深度	下端深度	コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	適正化した記事内容	
179	61.38	63.61	CM 上部の61.38～61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	-	-	-	61.38	63.61	61.38～63.61m:CM 上部の61.38～61.42m間と62.82m以深は、割れ目ぞいに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。
180	62.53	62.57	互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが砂状化や粘土化による劣化は半々ではない。	-	-	-	62.53	62.57	62.53～62.57m: 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は半々ではない。
181	62.82	63.61	岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2～10m/m程度砂状～細かい片状化する。 粘土化部や粘土脈ははさまない。	-	-	-	62.82	63.61	62.82～63.61m:岩片は硬いが(硬さ「B」)、割れ目ぞいに幅2～10mm程度砂状～細かい片状化する。粘土化部や粘土脈は挟まない。
182	63.61	64.00	D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。φ10～60m/m硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。	-	-	-	63.61	64.00	63.61～64.00m:D 割れ目ぞいの風化が著しく進み砂状化する。径10～80mm硬さ「D」「C」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。
183	63.90	63.94	60° 幅1～3m/m石英脈が2条分布。	-	-	-	63.90	63.94	63.90～63.94m:60° 幅1～3mm石英脈が2条分布。
184	64.00	64.33	CL 50～80° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部ではφ10m/m程度に細かく岩片化する部分もある。	-	-	-	64.00	64.33	64.00～64.33m:CL 50～80° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部では径10mm程度に細かく岩片化する部分もある。
185	64.00	64.33	(岩級区分欄)CL	64.00	64.33	(岩級区分欄)D	64.00	64.33	(岩級区分欄)Dに含める - 区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
186	64.33	66.07	CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。	-	-	-	64.33	66.07	64.33～66.07m:CM 割れ目の多くは割れ目ぞいに薄く砂状化する。
187	65.22	65.30	40° と70° 割れ目が交差し、幅10～20m/mと風化砂状部が拡大している。またわずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも併っている。	-	-	-	65.22	65.30	65.22～65.30m: 40° と70° 割れ目が交差し、幅10～20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも併っている。
188	65.90	65.90	φ20m/mと大型な石英斑晶が晶出。	-	-	-	65.90	65.90	65.90m:径20mmと大型な石英斑晶が晶出。
189	66.07	66.62	CL 風化したゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目が多くハンマーの軽打で細片化する。	-	-	-	66.07	66.62	66.07～66.62m:CL 風化したゆるぎ割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。
190	66.62	67.14	D φ5～20m/m硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白～淡黄色粘土も点在する。	-	-	-	66.62	67.14	66.62～67.14m:D 径5～20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。66.85m以深では原岩組織や割れ目の一部も残留する。また、部分的に灰白～淡黄色粘土も点在する。
191	-	-	-	66.97	66.97	傾斜55° 幅1～5mmの黄灰色粘土を挟む	66.97	66.97	66.97m:傾斜55° で幅1～5mmの黄灰色粘土を挟む。 - 周囲と異なる割れ目の特徴を追記した
192	67.14	67.27	CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む	-	-	-	67.14	67.27	67.14～67.27m:CL 50° 割れ目ぞいに軟化が進む。
193	67.14	67.27	(岩級区分欄)CL	67.14	67.27	(岩級区分欄)D	67.14	67.27	(岩級区分欄)Dに含める - 区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
194	67.27	67.80	CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。 67.40～67.47m間にφ5～10m/mに砕け角礫状化する。	-	-	-	67.27	67.80	67.27～67.80m:CM 割れ目ぞいに砂状化するものが多い。 67.40～67.47m:径5～10mmに砕け角礫状化する。
195	67.80	67.93	D 50～60° 割れ目ぞいに砂状化し、φ10m/m硬質岩片を含む砂礫状呈する。	-	-	-	67.80	67.93	67.80～67.93m:D 50～60° 割れ目ぞいに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状呈する。
196	67.80	67.93	(岩級区分欄)D	67.80	67.93	(岩級区分欄)CL	67.80	67.93	(岩級区分欄)CLに含める - 区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた
197	67.93	68.15	CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状化部をはさむ。	-	-	-	67.93	68.15	67.93～68.15m:CL 45° 割れ目ぞいに薄い砂状化部をはさむ。
198	68.15	68.60	CM 割れ目に挟在物は分布しない	-	-	-	68.15	68.60	68.15～68.60m:CM 割れ目に挟在物は分布しない。